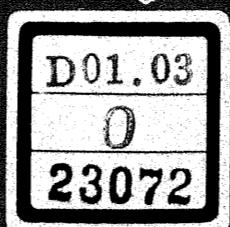


伊能忠敬

長岡半太郎監  
大谷亮吉編



帝國學士院藏版

# 伊能忠敬

理學博士長岡半太郎監修  
理學士大谷亮吉編著

名著100選圖書

56.2.5

登録	昭和年月日
番号	第 23072 号
社団法人	土木学会
附属	土木図書館

伊能忠敬肖像



伊能忠敬家訓（自筆）

家訓  
才一 假手も偽を云ふ孝行也  
正直する  
才二 事のとおりへ如論道下の人  
才三 教訓呈聞請ひ志後  
相用ゆく守り  
才四 敬謹覆讐と云ふ後を退け  
寛裕ニ活半齋  
淨諦かど成べ

支九月廿一日

The image shows a vertical scroll of calligraphy in cursive script (caoshu). The text is organized into four columns, each starting with a '才' character followed by a short title or topic. The main body of text discusses moral and ethical principles, such as being honest, keeping promises, and avoiding backbiting. The date '支九月廿一日' (September 20th, Genroku 11) is written at the bottom left. The entire scroll is mounted on a dark, textured background.

名乘書

佐原伊能家

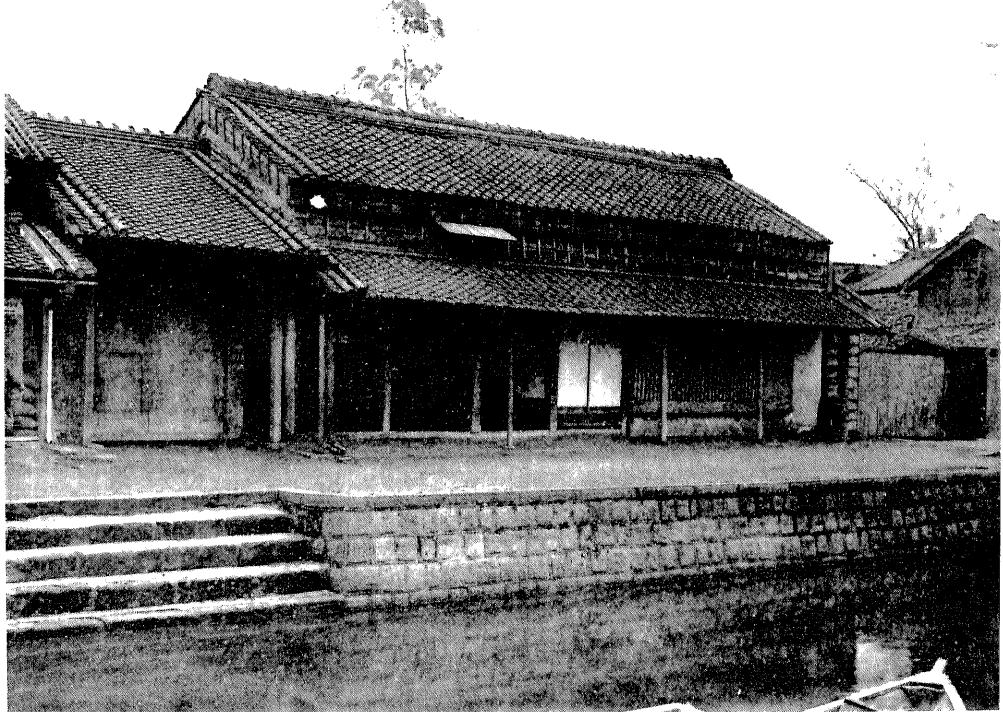
忠敬

歸納  
訂

論語衛靈公篇子曰言忠信  
行焉敬雖彌躬之邦行來於  
此聖言可譽可謬誰守此言  
此如不則何往不辱何往  
不辱勿忘勿忘所期在茲所  
在在茲

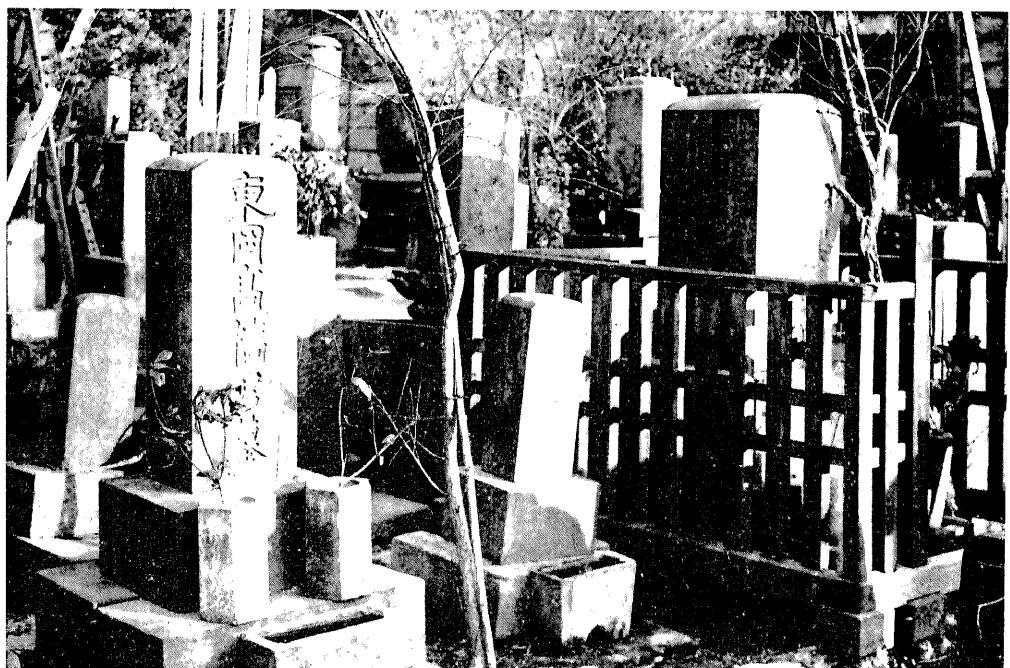
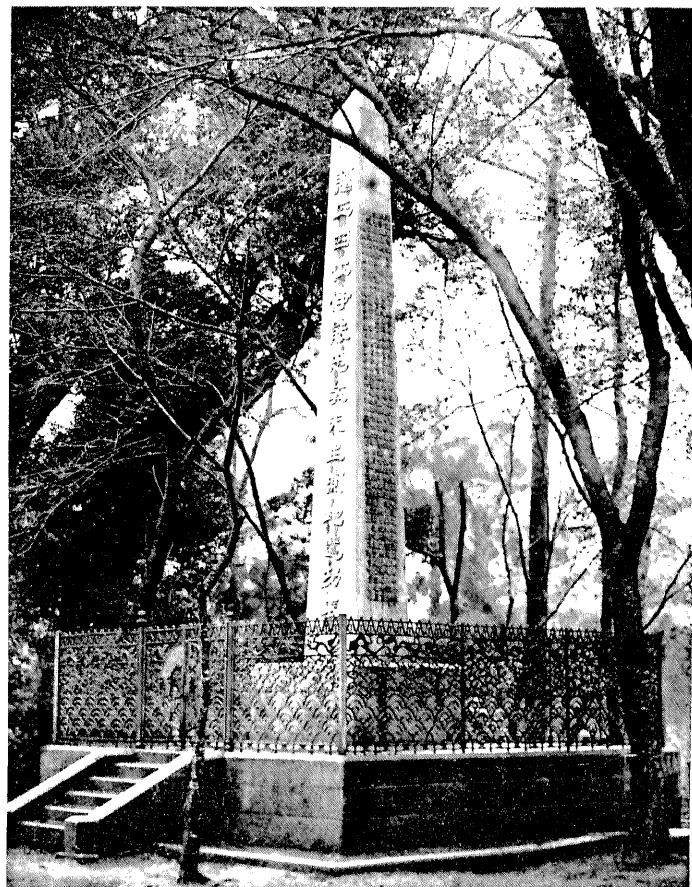
寶曆壬午仲冬佳辰

國子祭酒林子參之考



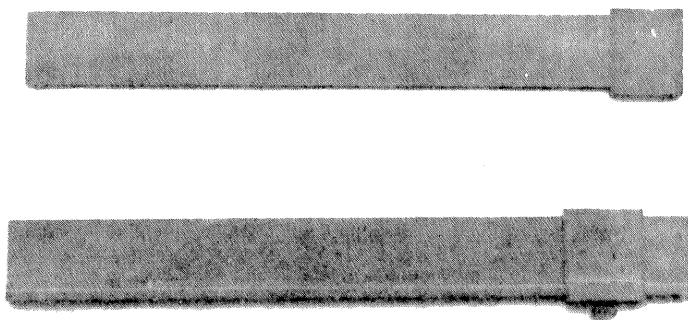
左方の門は忠敬が伊能家を經營せし時の倅の形態を存す  
右方の家屋は忠敬時代の倉庫を改造したるものなり

測地遺功表

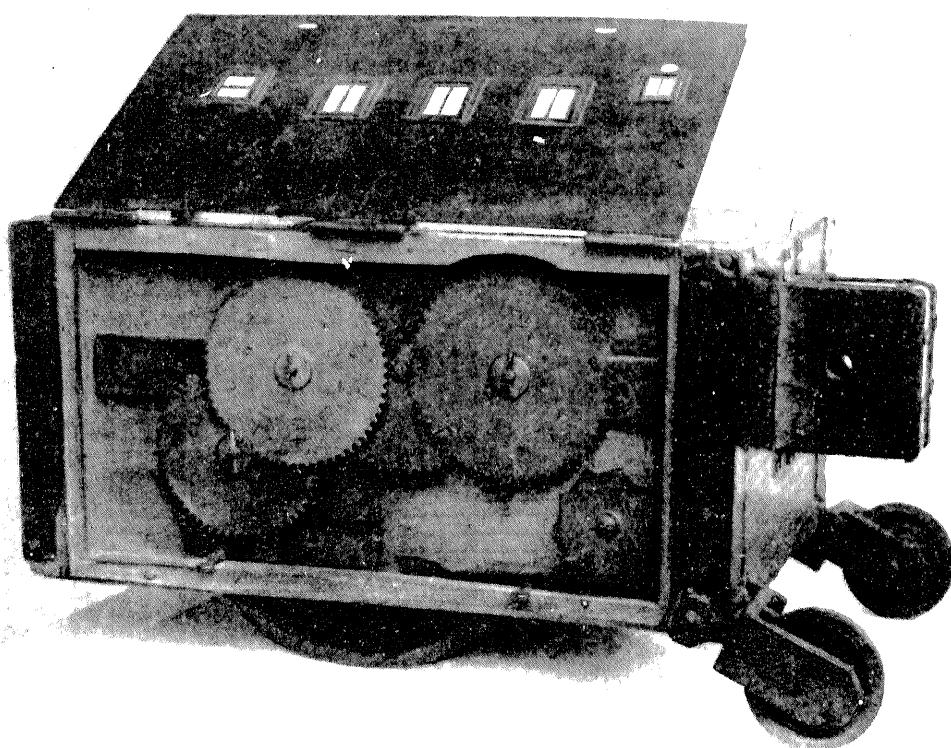


墓碑（右、伊能忠敬、左、高橋至時）

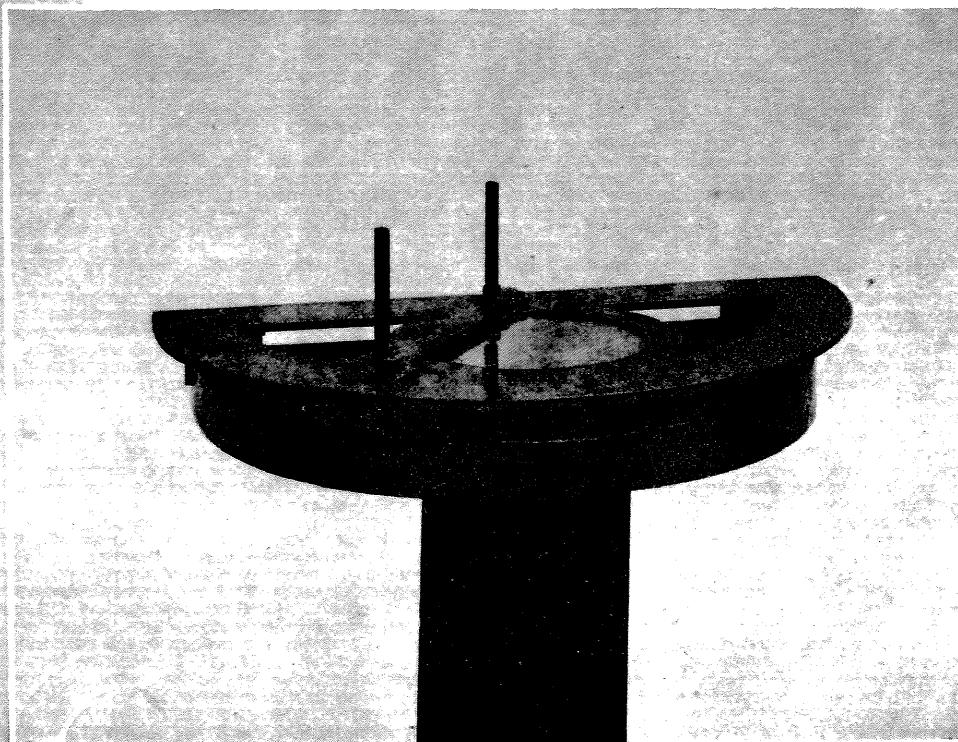
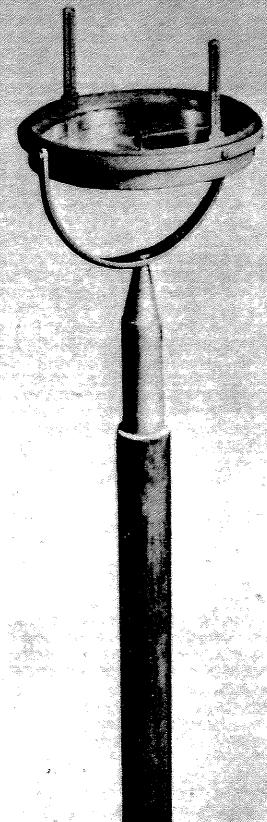
尺度（實大の約四分の一）



量 程 車（實大の約四分の一）

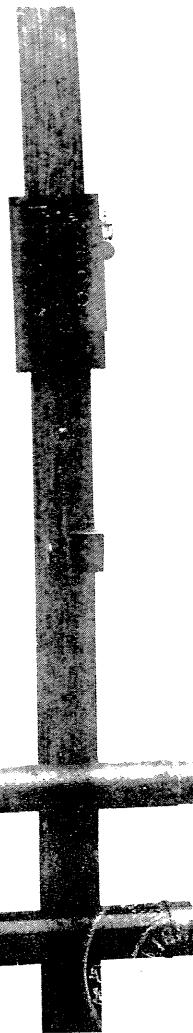


小方位盤（實大の約四分の一）



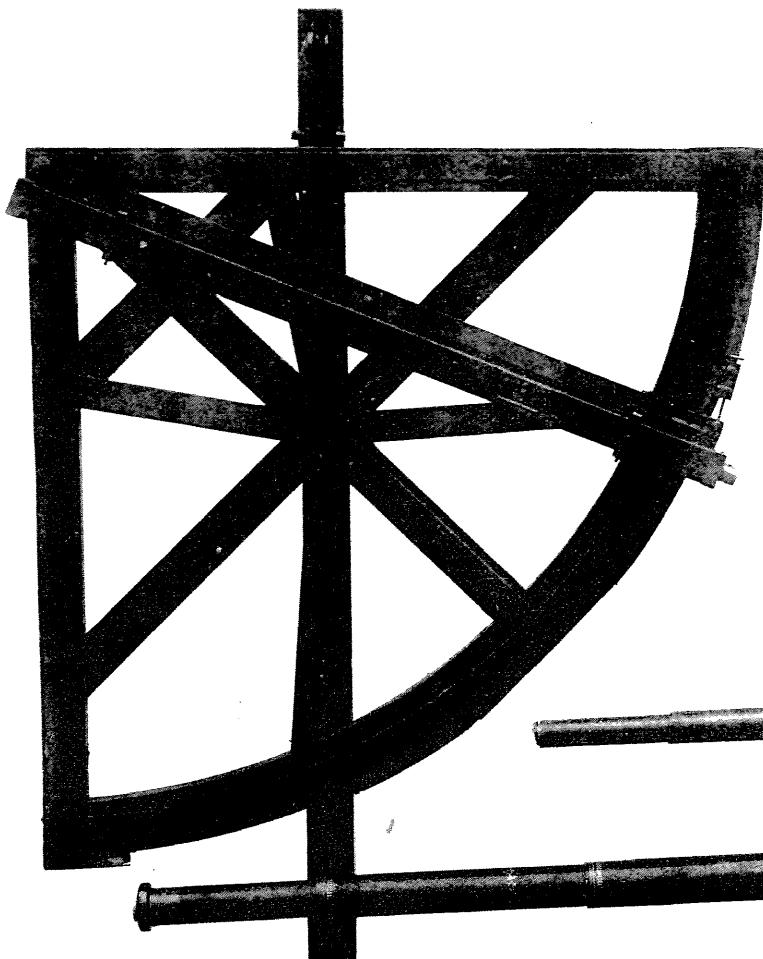
半圓方位盤（實大の約四分の一）

垂 搖 球 儀 (實大の約十二分の一)



儀 分 定 食 測

(上)



鏡 星 (下及中)

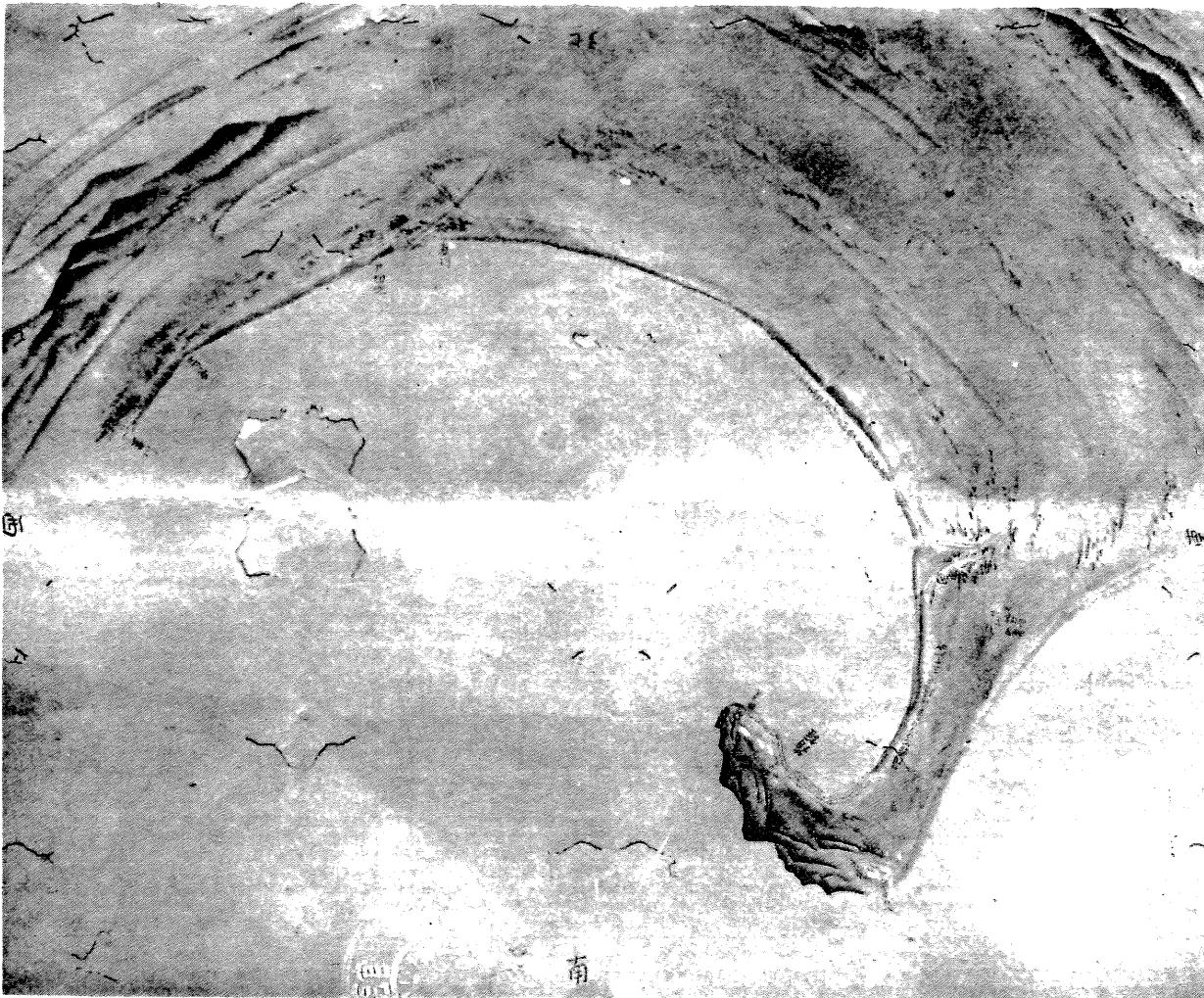
象 限 儀 (實大の約十二分の一)

測量日記（自筆）

恒星表（一部分自筆）

横	崖	峰	山	峰	山	山	山	山	山	山	山	山	山
崖	峰	峰	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多
如	如	如	如	如	如	如	如	如	如	如	如	如	如
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
二	一	四	五	六	三	三	三	三	三	三	四	五	六
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
小	下	小											
二	下	下	同										
二				同	〇	一	一	二	二	〇	内	一	三
二					方	七	二	土	三	一		四	六
口					二	四	三	〇	三	一		〇	〇
					五	五	五	〇	五	〇			
下	下	下	下	上	下	下	下	下	下	下	平	门	下
二	门	正	二	一	〇	一	一	二	三	同	一	〇	二
二			二	如	而	五	五	二	四			〇	
三				如	五	五	二	四	四				
上				如	五	五	〇	〇	五				

寛政十二年測量館附近地圖（自筆、原圖の約四分の一）



文政四年製日本輿地全圖中圖（寫本、原圖の約二分の一）



麻田妥影、高橋至時、間重富、高橋景保、伊能忠敬の手簡

卷之三

清江一曲抱村流，  
白水东流到此回。  
两岸青山相对出，  
孤帆一片日边来。

(麻田妥彰)

(高橋至時)

(間重富)

(高橋景保)

## 序　言

維新前我邦に於る科學は概ね秘傳的に發達せるものにして其普及を圖らざりしにより今日其状勢を窺ふは決して容易の業にあらず獨り伊能忠敬翁の沿海實測の事業は人口に膾炙し江戸時代科學の偉績として特筆大書すべきものなり。

聖恩枯骨に及びて贈位の榮を荷ひ銅標は永久に其遺功を表彰すべく教科書に載せられたる其略傳は兒童をして感奮興起せしむるに足る然れども翁の如き科學者を傳ふるには其事業の科學的解析を施して始めて其眞價を發揚し得べし僅に口碑に存せる傳説と一片の地圖とを以て翁の如き偉大なる人物を傳へんと欲するは其道を得たるもの

のと謂ふべからず十餘年間櫛風沐雨測量に從事したる經歷は尊いらざるに非ず然れども唯其經歷を説きて測圖の精粗器械の良否等に論及せざるは傳記として十分なるものにあらず或は世人をして謬りて翁を當時の學究者と伍せしめ簞食瓢飲以て業務に蒞みたりと做し其當初產を治め產成りて而して後測地事業に盡瘁し許魯齋の理想を實行せる注意すべき閱歷を暗黒裡に没せしむるが如きは遺憾に堪へざる所なり。

顧るに邦人の歐人と交通を開きてより茲に四百年其始め彼の學藝は直接に我邦に傳はり或は間接に支那を經て入り來りて徐々に科學發達の素地を作れり而して兵學醫學星曆學等は隱約の裡に一部人士間に流布したるも耶蘇教の嚴禁に伴ひて汎く彌蔓するに至らず八代將軍吉宗禁

書の令を緩むるに及び科學を攻究する氣運茲に一新し之を實地に應用して邦家必須の事業を敢行したるもの尠からず就中麻田妥彰の天測に精しく推理に密なりしと其高弟たりし高橋至時が星學の蘊奥を究め間重富が器械の精緻に力を用ゐし如きは並びに當代を超越せしものなり。

翻つて忠敬翁が當初一介の浪人にして能く沿海測量の大業を遂行したる淵源を繹ねるにこれが方策を翁に授けしは至時重富の二人にして其濫觴は實に妥彰に在り翁が是等の先輩の慾漁に従ひ其指導を仰ぎ百方援助を得たることは翁の告白するところなり翁は表面に立ちて事業を擔當したれども其裏面には巧妙なる參劃者ありしことを忘るべからず翁の事業は僅に十餘年にして功を竣へ其勢滔滔として大河を決するが如くなりしも其源泉は幽邃な

る潤谿に遡りて之を索めざるべからず世人翁の傳ふべきを知れども此三人者ありしを知らざるに似たり是等の世に顯れざる先覺者は洵に科學的に傳ふべき學識を具へ偶然相合して力を翁の事業に添へたり三人者微りせば翁は閭巷の逸民たりしに過ぎざりしも亦知るべからず茲に翁を傳ふるは即ち三人者を傳ふる所以なり。

妥彰歿してより既に百十餘年文獻の徵すべきもの絶えて無くして其遺績を尋ぬべからず至時重富の二人に關しては幾分の材料を存すと雖も尙多くは斷簡零墨のみ忠敬翁の事業を明にすべき根本資料は割合に渺からずと雖も亦歲月と共に漸次湮滅して今日之を收拾せざれば遂に噬臍の悔あるや必せり是を以て明治四十一年六月予は帝國學士院總會に於て殘存せる材料を蒐集し翁の事蹟を明確

にして之を世に傳へんことを諮りしに其贊成を得爾來院の事業の一として調査の歩を進め以て今日に至れり幸にして理學士大谷亮吉君は星曆物理に精通せる眼識を以て其事に當り多方捜査して新材料を發見し綿密に考證攷確する所あり殊に伊能家に於て検出したる測量日記の如きは最も貴重なる發見なりとす此日記は翁が全出張期間を通じて手記せるものにして毫も遺脱なしあれば翁が本邦の測量を企圖するに至れる動機より實測の方法及び経過等に至るまで從來世に知られざりし事項を之によりて闡明するを得たり然れども翁の業務の實況を最も詳細に語るべき數百冊の測量野帳は既に散逸して僅に數葉の斷片を止むるに過ぎず誠に惜むべきことなりとす只此野帳の原簿より摘錄せる山島方位記、北極高度測量記、及び實測に

關する記録、一地方の測量を了する毎に製したる各種の地圖並に下繪圖等は閒々殘缺するものありと雖も幸に多くは存在し當時の苦心を語りて餘あり且つ實測に使用したる儀器尺度等の保存せられたるもの亦渺からざるを以て是等の科學的解剖は百年前我邦に於る器械の精粗工匠の巧拙等を鑑査するに最も有利なる資料となりたり。

本書を編纂するに當り参考に資すべき貴重なる文書儀器等の伊能家其他に所藏せらるゝもの渺からず伊能三郎右衛門君海鹽錦衛君小倉常三郎君平山龜之助君理學博士平山清次君工學博士子爵大河内正敏君杉山正治君神保貢君大須賀恒造君稻本楨治郎君藤井準一郎君其他の諸君は皆本書編述の趣旨を諒とし自由に其所藏品を参考吟味することを快諾せられ或は材料蒐集上多大の便宜を與へら

れ能く調査の目的を達するを得たり稿本成るに及び文學博士三上參次君理學博士坂井英太郎君文學博士狩野亨吉君は之を閱讀して有益なる助言を與へられたり是等の諸君に對し深厚なる感謝の意を表す。

今や調査を終り其結果を公にせんとするに當り男爵三井八郎右衛門君は金貳千圓を帝國學士院に寄贈して出版を補助し本書を汎く大方の諸君に頒つことを得しめられたり茲に其の好意を鳴謝す。

明大正七年は翁歿してより將に百年ならんとす其閒遺績を繹ぬべき資料の全く泯ぶるに至らずして之を世に傳ふるを得たるは本邦科學界の爲に慶すべきところなり惟ふに予が祖父中尾半兵衛五郎門當時節と稱すは嘗て翁に親炙せしことあり其翁の門に入りしは蓋し文化十年に在り今や翁の事

蹟を傳ふるに當り予は微力を之に致すことを得たり祖父の閱歴を追想して衷心喜に堪へざるものあり乃ち僭越を顧みず敢て一言を添ふと云ふ。

大正六年三月

帝國學士院會員 理學博士 長岡半太郎 識

### 凡例

一本書の編著に際し参考したる圖書は數百卷に上るも今茲に其書目を逐一列記せず。然れども本書は臆測揣摩を避くるを旨としたれば書中主要なる事項は其準據せし文書の原文を引用してこれを考證し且條項毎に参考書名を割註中に記載せり。又文書の徵すべきものなくして口碑傳説等に據りたるは其旨を明記せり。其他參考資料を所藏し若くは供給せられたる人士の氏名も亦關係事項の割註中に掲げたり。

一引用せる書簡及其他の文書にして署名者の手記になれる原本より直接に採りたるものは假令誤字脱字等あるも毫も訂補することなく原文の儘にてこれを採錄せり。例せば忠敬の書簡中に「出精」を常に「出情」と記し、その「贈間宮倫宗序」中に「是爲贈別之言」を「是爲贈言之別」と誤記し、又平山郡藏等より忠敬に差出せる起請文中には「起請文」を「起證文」とし「百姓」を「百姓」とせるを初めとし誤字頗る多きも凡て原文の儘にて掲載せるが如し。其他官署等より發せる文書類も忠敬がその測量日記に載録せるものは假令誤字脱字と認むべき所あるも成るべく其儘にて採錄せり。例せば「箱館」は蓋し「箱館」なるべく「宿村々」は「宿々村々」

なるべきもこれを訂補せざるが如し。但し傳寫に係るものにして數種の謄寫本あれば互に校合して誤脱の極めて明瞭なるものに限りこれを改めたり。されど渡邊慎の編述せる量地傳習錄の如きは其文中假名遣ひ、送り假名等に異様の所多きも成るべく原文の儘に従ひたり。讀者以て誤植となすこと勿れ。引用文中に無條件にて挿入せる割註は原註なり。編者が新に加へたるものは括弧内に入れ且誤解を生じ易き所は「編者曰く若くは」編者按するに等の語を冠してこれを明にせり。又引用文の句讀點は特別なる場合の外は原文の儘に従ひたるも加點は編者が新に主要なる字句に施せるものにして原文に存するにあらず。

大正五年十二月

### 編著者識

# 伊能忠敬目次

## 伊能忠敬年譜

伊能平山、神保三家の親族關係表

忠敬の子孫一覽表

## 第一篇 忠敬の閱歴

### 第一章 三治郎時代

(一) 呼稱呼稱一

(二) 幼時出生父母二 神保氏系譜二 幼時の境遇二

(三) 少壯の頃寄食的生活三 算數三 醫學四 人に長たる才四 青雲の志五

### 第二章 新主人時代

(一) 入夫結婚伊能氏略譜及閱歷六 結婚前後の事情一〇 平山季忠の猶子となり林大學頭の命名六

伊能氏略譜及閱歷六 結婚前後の事情一〇 平山季忠の猶子となり林大學頭の命名  
を請く一二 忠敬の心事一三 傳説の誤謬を正す一三

## (II) 家運挽回

名主後見……一四 商才發揮家運挽回……一五 林氏との關係……一五 潜勢力養成……一六

**第三章 中年時代**

## (I) 多少の閑日月

文藝に親む……一六 奥州旅行……一八

## (II) 村務に鞅掌

佐原の地旗下の采邑となる……元 名主を命ぜらる……二〇 天明三年の凶歎地頭より苗字帶刀を許さる……二〇 室伊能氏の病歿……二一 村方後見……二一 天明六年の飢饉……三三人扶持を賜ふ……三三

## (III) 退隱の志

曆算自習……三 再婚……六 關西旅行……七 退隱……一六 後配歿す出府……二九

**第四章 江戸修養時代**

## (I) 素養

數學……三 曆學……三 量地術……三

## (II) 入門

寛政改曆と西洋新曆法……三 高橋至時を師とし間重富を友とす……三

## (III) 改々研學の跡

西洋曆法の習得……毛 観測術實習……四 測量器械……四

**第五章 日本測量時代**

## (I) 測量請願の動機

地度決定の必要……四 地圖に關する特殊の趣味……四 驚勃たる功名心……五 時代の要求……五

## (II) 幕府への交渉

至時の提議……三 幕府當局の意向……三 義多の曲折……三 請願許可……五

五一

## (III) 蝦夷地測量

隨從者及携帶測器……堯 奥州街道略測……六 蝦夷地東南沿岸測量……六 蝦夷地よりの歸途……七 製圖……七 實地の經驗……六 高橋至時の批評……九 間宮倫宗と邂逅……七 忠敬内縁の妻……七

五九

## (IV) 第二次測量に關する交渉及忠敬身上の光彩

忠敬の計畫……三 幕府當局の内意と計畫の變更……三 忠敬身上の一大光彩……三 至時等の斡旋……毛

七一

## (V) 本州東海岸の測量

伊豆より陸奥に至る東海岸の測量……八 奥州街道の再測……八 忠敬の受けたる便宜……八 測量の成果……全

八〇

## (VI) 第三次測量に關する交渉

蝦夷地測量を中止し内地の測量を繼續す……六 忠敬の資格と待遇……八

## (七) 羽越測量

測量の巡路・児・測量の経過・九三

八九

## (八) 尾張及越前以東殘部の測量

測量の順路・壹・測量の實狀・壹・絲魚川事件・壹

九三

## (九) 本邦東半部沿海地圖の作製

高橋至時の病歿・大・東半部沿海圖の完成・九八

九八

## (十) 登用及西國筋測量の下命

異教の恩典・一〇二・開拓富の企畫・一〇四・其他の計畫・一〇五・西國筋測量の命・一一〇

一〇六

## (十一) 中國測量

豫定の順路・二七・江戸より東海道及伊勢紀伊等の海岸を經て大津に至る・二八・豫定順路を變更し攝津播磨備前の海邊を測り岡山に越年す・二九・中國測了の上一旦歸府に決し更に着員を詣ぶ・二一・備中より赤間關に至る海邊測量・二三・忠敬の罹病、赤間關より出雲まで及隱岐の沿海測量・二三・忠敬の病漸く怠る、伯耆より若狭に至る沿海並に敦賀より大津四日市を經て名古屋に至る街道測量・二四・測量の経過・二五・門弟の破門・二六・地圖御用所・二七

## (十二) 四國測量

往路の街道測量・二六・四國及淡路の測量・二六・歸路の街道測量・二七・測量の經

一一七

過・一三〇・地圖の製作・一三一

## (十三) 九州第一次測量

往路中山道山陽道等の測量・一三一・豊前豊後日向大隅薩摩の沿海及二三の横切測定・一三二・屋久種子二島渡航延期、肥後沿岸天草諸島薩肥街道大分街道等の測量・一三三・歸路中國地方及尾三信甲武地方の街道測量・二三・測量の経過・二三・間宮倫宗の測量術實習・二三

一一一

## (十四) 九州第二次測量

往路相甲駿の二三街道の測定・一四一・小倉より鹿兒島に至る街道及薩南二島測量・一四二・大隅日向肥後豊前豊後に亘れる諸街道の測量・一四三・筑前筑後及肥前一部分の海岸並に街道測量・一四四・壹岐對島及五島測量、坂部貞兵衛の病歿・一四五・肥前殘部海岸及肥前筑前等に於ける街道測量・一四五・歸路中國諸州街道殘部の測量・一五〇・近畿及飛信野武等主要諸街道の測量・一五二・測量の経過・一五三・出張中の異變・一五四

一四一

## (十五) 地圖の整理及江戸府内街道繫測

移轉・一五〇・九州地方地圖の製作・一五一・江戸府内街道繫測・一五二

一六三

忠敬行を共にせず・一五三・伊豆七島及伊豆東海岸並に街道測量・一五五・駿相武諸街道の測量・一五六・測量の經過・一五七

## (十七) 關東地方再測の畫策及江戸府内測量

一六八

## 第六章 晩年時代

### (一) 輿地全圖製作の監督

輿地全圖完成の遲延……〔七〕……間宮倫宗實測蝦夷地沿海圖の補入……〔七〕……地圖擔當者罷職するもの多し……〔七〕

### (二) 曆學及測量術の教授並に著述

曆學及測量術の教授……〔七〕……著述及研究……〔七〕

### (三) 卒去

晩年の健康狀態……〔五〕……卒去……〔五〕

## 第七章 秘喪時代及發喪後の事蹟

### (一) 輿地全圖の完成

輿地全圖の完成上呈……〔七〕……後繼に關する忠敬の心事……〔九〕……發喪……〔八〕

### (二) 後繼子孫

忠海に五人扶持及町屋敷を賜ふ……〔八〕……常總の湖川自費實測の議……〔八〕……忠敬墓碑の建設及輿地全圖副本の完成……〔八〕……忠海の夭折と其後の伊能家……〔八〕

### (三) 實測圖の外交に及ぼしたる影響

シーホルト事件と實測圖に對するクレーゼンステルンの評……〔九〕……英人本邦沿海測量を中止す……〔九〕

## 第八章 餘錄

### (四) 贈位の恩典

贈位の恩典……〔五〕……香取郡長及千葉縣知事の奔走……〔五〕……佐野常民の盡力と能久親王

殿下の上申……〔五〕……銅標の建設……〔五〕

……〔五〕

### (二) 諸侯と忠敬

東海岸及東北地方……〔九〕……東海道及北陸道……〔九〕……西國地方……〔九〕……濱田藩士土井脩

助の記錄……〔九〕……土佐藩士奥宮正樹の日記……〔九〕……薩藩の侵逼……〔九〕……諸侯と地圖

……〔八〕

### (三) 忠敬の人格と其家庭

家訓……〔三〕……室伊能氏及桑原氏の性格……〔三〕……長女の放逐及復歸……〔三〕……庶子の放逐

……〔三〕……忠敬幼時の家庭の影響……〔三〕

### (三) 逸話

……〔八〕

## 第二篇 忠敬の測地事蹟

### 第一章 寛政の頃本邦曆算學者及量地學者の有せし知識の程度

### (一) 曆學

曆學の廢類及貞享の改曆……〔九〕……西洋曆法の輸入……〔九〕……西洋曆法の勃興……〔九〕

……〔九〕

……〔九〕

- (II) 數學  
測流數學の發達……二三一……西洋數學の輸入……二三一

- (III) 量地學  
徳川氏時代の量地學は西洋測量術に淵源す……二四一……量地書の出版相繼ぐ……二五五……寛政

の初期に知られたる諸法及諸器……二五八……官府の手に成れる地圖……二五六……民間に行はれたる地圖……二五三

## 第二章 忠敬所用の測量法

- (I) 概說  
導線法に加ふるに天體觀測と測器の精選とを以てす……二五三

- (II) 量地法  
量地方法……二五七……實測野帳……二五八……山島方位記……二五九……地勢見取圖……二六六

- (III) 量地器械の構造及其使用法  
尺度……二六九

尺度の沿革……二九一……伊能折衷尺の説……二九〇……伊能折衷尺に對する疑惑……二九二……伊能家

所藏の尺度……二九三……物體の伸縮に關する知識……二九一……忠敬所用の度制の推斷……二九三

間 棒……二八三

構造及用途……二八三

間 繩……二八四

構造及用途……二九一



測繩の種類……二八一……測繩及其使用法の變遷……二八一

量程車  
構造及用途……二九一

羅 鍼  
磁鍼の改良……二九三……忠敬所用の磁鍼の構造……二九三……羅鍼使用上の注意……二九九……磁的偏差に關する忠敬の斷定……二九〇

小方位盤  
小方位盤の特徵……二九一……逆目小方位盤の構造……二九二……逆目小方位盤の使用法……二九八……

順目小方位盤の構造及使用法……二九〇……小方位盤の用途……二九三

半圓方位盤  
構造……二九三……使用法……二九六……用途……二九一

大及中方位盤  
構造……二九一……使用法……二九六……大及中方位盤の效果……二九七

傾斜測定用象限儀  
構造……二九一……使用法……二九三……水準測量用平準儀……二九四

量地野帳の整理及計算  
野帳の整理及摘錄……二九六……測線の東西及南北分長の計算……二九六……測地的緯度の差の計

算……二九六

## (五) 測天法

天體觀測術……三六〇 緯度測定法……三六一 經度測定法……三六七

三四五〇

## (六) 測天器械の構造及其使用法

## 象限儀

象限儀の發達……三五二 構造……三五三 設置及整齊法……三五四 子午線決定法……三五五 方中

高度測定法……三五〇 江戸原點に於ける恒星視高度表……三五四 各地と原點との緯度の差

……表一 江戸原點の緯度……三五五 子午線儀としての代用……三五六

## 子午線儀

子午線儀の起原……三五六 構造……三五六 整齊及觀測法……三五六 運搬用子午線儀……三五六

地方時測定法……三五七

## 垂搖球儀

測時器の沿革……三五六 垂搖球儀の構造……三五八 整齊法及運行狀態……三五九 使用法……三六〇

## 測食定分儀

定分儀の創用……三六一 構造……三六二 整齊及使用法……三六三 簡易定分儀の構造及使用法

……圖八 加精寫影鏡……三六〇 交食觀測の實例及經差算定法……三六三

## 圭表儀

圭表儀の變遷……三六四 構造……三六五 整齊及使用法……三六六 太陽の高度及緯度の計算

……圖五

三四八

三九八

## 望遠鏡

遺存せる望遠鏡……三六七 木星衛星の交食觀測……三六八

四三四

## (七) 天測の成果

四三六

## 緯度測定

四三七

絶對測定……三七〇 比較測定……三七一

四三九

四三九

## 經度測定

四四七

日月食測定……三七二 木星衛星の交食測定……三七三 江戸大阪間の經差……三七四

四四七

四四七

## 第三章 測量材料の調整及製圖方法

## (一) 子午線一度の長さの決定

算出方法……三七五 算定に用ひたる材料及算出せる數値……三七六

四五六

四五六

## (二) 製圖用具及製圖用紙

畫板……三七六 定規……三七七 尺尺……三七八 縮圖尺……三七九 分度規……三八〇 兩脚器……三八一

圓規烏口點線器等……三八一 製圖用紙……三八二

四六二

## (三) 小區域に對する下圖の製作

描畫及計算誤謬の點検……三八三 測量誤差の補訂……三八四 過失の發見及訂正……三八五

……圖五 寄圖製作の一般方針……三八六 投影法の不完全なるに起因せる影響及其調節策……三八七

大圖定稿の滑寫法……三八八

四六七

寄圖製作の一般方針……三八六 投影法の不完全なるに起因せる影響及其調節策……三八七

四六七

大圖定稿の滑寫法……三八八

四六七

## (五) 地方圖

地方圖描出の方針 ..... 四七一  
各地方圖調整上の異同 ..... 四七二

## (六) 総合輿地圖

本邦東半部圖の総合法 ..... 四七三  
日本輿地全圖の製作法 ..... 四七四

## (七) 地圖投影法に關する知識の程度

サムソン・ラムスチック式を採用せし理由 ..... 四七五  
高橋至時の投影法改良案 ..... 四七六  
忠敬の拙速策と其覺醒 ..... 四七七  
忠敬部下の學識の貧弱と高橋景保の不注意 ..... 四七八

**第四章 測量の精度**

## (一) 距離測量の精度

測繩の精度 ..... 五〇三  
實測誤差 ..... 五〇四

## (二) 方位測定の精度

方位盤の精度 ..... 五〇六  
觀測誤差 ..... 五〇九  
磁的偏差の日變化 ..... 五一〇  
磁的偏差及其影響 ..... 五一三

## (三) 緯度測定の精度

象限儀の精度 ..... 五一〇  
觀測誤差 ..... 五一三  
原點に於ける觀測の精度 ..... 五一三  
恒星表の精度 ..... 五一三

## (四) 度法の精度

平均度法としての精度 ..... 五一四  
地球の偏圓率を無視せる影響 ..... 五一四

## (五) 經度測定の精度

天測によりて得たる經度の精度 ..... 五一六  
交食の觀測誤差 ..... 五二一  
垂搖球儀の精度 ..... 五二八

覉 ..... 午正時決定の誤差 ..... 五二一  
測地的に決定したる經度の精度 ..... 五二一

## (六) 地圖の精度

小區域圖の精度 ..... 五二五  
寄圖の精度 ..... 五二五  
地方圖の精度 ..... 五二六  
綜合圖の精度 ..... 五二六

## (七) 精度に關する結論

**第五章 測量に使役したる實員數及費用**

## (一) 測量に使役したる人員

表面上の使役人員數 ..... 五二八  
實政及享和年間の測量費用 ..... 五二九  
文化年間の測量費用 ..... 五二九

## (二) 測量に要したる費用

實政及享和年間の測量に使役せる實員數 ..... 五二九  
文化年間の測量に使役せる實員數 ..... 五二九

**第六章 忠敬所製の地圖並に著書**

## (一) 地圖

著書及記録 ..... 五六七  
六一五

**第七章 忠敬謄寫の圖書並に其他の藏書**

## (一) 地圖及星圖類

六三四

- (II) 曆書類 ..... 一四  
 (III) 量地書及地理書類 ..... 六三八  
 (IV) 數學書類 ..... 六四二  
 (V) 普通書類 ..... 六四四

### 第三篇 忠敬の師友及門弟

- (I) 麻田妥彰 ..... 六四七  
 幼年時代 ..... 五七  
 曆學自習の経路及其造詣 ..... 五八  
 出奔 ..... 五九  
 語 ..... 曆說 ..... 五六  
 消長法 ..... 五六  
 究 ..... ケブレル第三法則及其他の自發事項 ..... 五六  
 醫術 ..... 五六  
 晚年 ..... 六五  
 逸事 ..... 六五  
 文稿 ..... 墓碑文 ..... 六五

- (II) 高橋至時 ..... 六六八  
 少年時代 ..... 五六  
 麻田へ入門及曆象考成後編の研究 ..... 五六  
 改曆後の研究 ..... 五六  
 蝦夷地測量の提議 ..... 五六  
 ランド曆書の研究 ..... 五六  
 宅 ..... 卒去及性格 ..... 五六  
 著書 ..... 五六  
 實測に關する技能 ..... 五六  
 家庭 ..... 五六

- (III) 間重富 ..... 六九七  
 幼年及壯年時代 ..... 五六  
 曆象考成後編の研究及職工並に人材の養成 ..... 五六  
 改曆御用掛を命ぜらる ..... 五六  
 自宅候測 ..... 五六  
 長崎出張 ..... 五六  
 關西地方測量の企圖 ..... 五六  
 再び曆局に出任す ..... 五六  
 奈良京都等の古尺調査 ..... 五六  
 晩年及病歿 ..... 五六  
 論著 ..... 五六  
 製出せる測器類 ..... 五六  
 性格及逸事 ..... 五六  
 墓碑文 ..... 五六

- (IV) 高橋景保 ..... 七二五

幼年時代 ..... 七三  
 事業及著述 ..... 七三  
 ジーホルト事件 ..... 七三

- (V) 間宮倫宗 ..... 七三一

蝦夷地勤務 ..... 七三  
 樺太及東薩地方探檢 ..... 七三  
 測天法實習及蝦夷地測量 ..... 七三  
 後半生 ..... 七三

- (VI) 澄川景佑 ..... 七四〇

- (VII) 市野茂喬 ..... 七四一

- (VIII) 坂部惟道及同弘道 ..... 七四二

- (IX) 下河邊與方 ..... 七四五

- (X) 柴山正彌 ..... 七四五

- (XI) 青木勝雄 ..... 七四六

- (XII) 永井充房 ..... 七四六

- (XIII) 今泉直利 ..... 七四七

- (XIV) 門谷常久 ..... 七四七

- (XV) 川口春興、吉川景武、岡田道正 ..... 七四八

- (XVI) 久保木清淵 ..... 七四八

- (XVII) 渡邊慎 ..... 七五〇

- (XVIII) 伊能敬慎 ..... 七五一

目 次 総

- (十九) 平山季恭及同將季 ..... 七五二  
 (二十) 箱田眞興 ..... 七五六  
 (二十一) 保木永譽 ..... 七五六  
 (二十二) 植田文助、梁田榮藏 ..... 七五六  
 (二十三) 門倉隼太、大平雄助、小野榮重、村津大兄 ..... 七五六  
 (二十四) 小坂寛平、永澤藤次郎、久保木佐右衛門 ..... 七五六  
 (二十五) 竿取及從臣等 ..... 七五八  
 (二十六) 鎌田知至、平松紹右衛門、山中忠左衛門、谷以燕 ..... 七五九  
 (二十七) 其他の門弟 ..... 七六一  
 (二十八) 近藤守重、會田安明、司馬峻等 ..... 七六三  
 (二十九) 戸田東三郎、大野彌三郎等 ..... 七六六

伊能忠敬年譜

年 次	年 敬 齡の 歲	伊能忠敬年譜	
		戚忠に關する事項	蘭學、邊要等に關する重要事項
延享 二 一四〇五 1745	一 歲	正月十一日上總國山邊郡 小關村に生る。	去年本多利明生る。 本年長崎通詞等に洋書を譜讀する事を許す。 本年堀田仁助生る。
延享 三 一四〇六 1746	二 歲		
延享 四 一四〇七 1747	三 歲		
寛延 元 一 一四〇八 1749	四 歲		
寛延 二 一 一四一〇 1750	五 歲		
寛延 三 一 一四一〇 1750	六 歲		

本邦に於ける天文、測地、數學、  
探檢、戰亂等に關する重  
要事項

三年前  
Chladni : Théorie de la  
Figure de la Terre を發  
D'Alembert : Traité de  
Dynamique を著す。

Laplace : 佛蘭西に生る。  
Delambre : 佛蘭西に生る。  
Euler : Scientia Nivalis を出版

Bradley : 章動 (Nutation) を發見

正月西川正休天文方に任ぜらる。  
司馬江漢生る。  
會田安明生る。  
十月桂川甫筑歟す年八十七。

山路主住改曆御用手傳を命ぜらる。

二月澁川則休改曆の要務を帶び西川正休等と共に上  
京せしも仙洞崩御の爲め事な果らずして江戸に歸り  
八月歿す。弟光洪其後を襲きて天文方に任ぜらる。

桂川甫周生る。

Chladni : Théorie de la Lune を  
對し學士院賞を受く。

寶曆元 二四一 1751	十二月母小關氏歿し父貞 恒はその實家上總國武房 す。郡小堀村神保氏へ復歸	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆二 二四一 1752	六月西川正休江戸へ召還せられ以後改暦に與らず。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆三 二四一 1753	六月前將軍徳川吉宗薨す。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆四 二四一 1754	寶曆甲戌暦成り改暦す、土御門泰邦、瀧川光洪、山路主住等與れり。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆五 二四一 1755	村井昌弘量地指南後編を著す(寛政九年刊行)。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆六 二四一 1756	林子平仙臺藩士となる。 五月西川正休歿す年六十四。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆七 二四一 1757	此頃常陸某守の僧につき て數學を習得す。 六月伊能氏の女婿景茂歿 す年二十一。冬伊能氏の 女景茂の長男忠孝を生む。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆八 二四一 1758	九月神田佐久間町觀測所(天文臺)を廢す。 九月大根玄澤生る。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆九 二四一 1759	坂部廣胖生る。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆十 二四一 1760	平賀源内始めて物産會を湯島に開く。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆十一 二四一 1761	此頃常陸土浦の醫菜の許 に寄食し經學方醫を學ぶ。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆十二 二四一 1762	伊能氏の女名を達と改む。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
明和元 二四二 1764	十二月伊能氏の女達の後 配となりて其家を繼き通 称を三郎右衛門と改む。 林見田より推されて名主後 を忠敬と改定す。忠 頭の門に入り實名 を忠敬と改定す。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
寶曆十三 二四二 1763	九月伊能氏先夫の子忠孝 死す年七。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
明和元 二四二 1764	長女稻生る。 九月伊能氏先夫の子忠孝 死す年七。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
	三月初めて出府す。 家して一家を立つ。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
	二月圖書集成全部舶齋す。 六月山路主住天文方に任ぜらる。 十一月佐々木(後吉田)秀長天文方に任ぜらる。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
	日下誠生る。時生る。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京
	本年より1768に亘り Mason 及 Dixon 北米に於て略子午線に沿 ひ約一度半の長さを測繩にて實測 し度法を算定す。	瀧川光洪、西川正休、山路主住等改暦に關して上京

明和二年 1765	二十一	七月大山石尊へ参詣す。	露國、千鶴列島中の羅處和、石沒石利二鶴を蠶食す。 佐々木秀長補曆要務を帶び上京し歸府後六月牛込光照寺門前火除地へ新曆調御用所を建つ。
明和三年 1766	二十二	長男景敬生る。 凶作に付米錢を發して窮民を救ふ。	露國人擇捉に來り得撫島に留住す。 七月奥村邦俊新曆御用手傳を命ぜらる。
明和四年 1767	二十三		千葉歲亂饑算活法率を著す。
明和五年 1768	二十四		
明和六年 1769	二十五	江戸に薪問屋を開く。	
明和七年 1770	二十六	二女篠生る。 八月江戸薪問屋類焼す。	
明和八年 1771	二十七		
		近藤守重生る。 濱川光洪波し養子正清天文方に任せらる。	Cook: 明年に於ける金星の太陽面経過観測及探検の爲め太平洋に航し藻洲地方の海岸を測り 1771 Napoleon 生る。
		山村昌永生る。	Napoleon 生る。
		平賀源内長崎にて舶來の電氣機械を見てこれを模造す。	
		十月青木昆陽歿す年七十二。	
		林子平蝦夷地を探検す。 十二月山路主住歿す年六十九。	賣歷曆法修補成る、佐々木秀長奥村邦俊等與る。有馬頼徳拾穂算法を刊行し點竅術を初めて世に公開す。 此頃麻田安彦并築藩を脱走して大阪に出づ。佐藤信淵生る。足立信頭生る。安岡(後宇田川)玄真生る。
		前野良澤、杉田玄白等の譯述せる新譯解體新書刻成	
		十一月養母民(伊能長山の妻)歿す年五十二。	
		青地林宗生る。	
		西村遠里天文摘要を著す。	
		新井田隆助松前藩の命により樺太の南部を探検す。 中西敬房増續古曆便覽を著す(寛政元年刻成)。	Cook: 南極地方の大陸探検の爲め出發し南氷洋を周航探査して 1775 英國に歸着す。
		帆足萬里生る。	Gauss: 獨逸に生る。
		長久保玄珠日本輿地路程全圖を刊行す。	Cook: 太平洋及北米西北海岸探査の爲め出發す。 North America 地圖を宣言す。

安永七年 1778	三十四	五月より六月に亘り妻達を伴ひ奥州松島邊を漫遊する。佐原の地御料所より轉じて津田日向守の采邑となる。
安永六年 1777	三十三	歳三十三
安永五年 1776	三十二	歳三十二
安永四年 1775	三十歳	歳三十一
安永三年 1774	三十歳	歳三十
安永二年 1773	二十九	歳二十九
安永元年 1772	二十八	歳二十八
		十一月養母民(伊能長山の妻)歿す年五十二。
		前野良澤、杉田玄白等の譯述せる新譯解體新書刻成
		青地林宗生る。
		西村遠里天文摘要を著す。
		新井田隆助松前藩の命により樺太の南部を探査す。 中西敬房増續古曆便覽を著す(寛政元年刻成)。
		帆足萬里生る。
		長久保玄珠日本輿地路程全圖を刊行す。

露國船東蝦夷厚岸に來り昨年の回答を促し通商を求

Cook : 布哇にて殺さる。

吉山秀升天文方に任せらる。

十二月平賀源内歿す年五十一。

安永八 1779 二四三九 巳亥	歲三十五		
天明元 1781 二四四一 辛丑	歲三十六	八月地頭より名主を命ぜ らる。	
天明二 1782 二四四二 壬寅	歲三十七	正月實父神保貞恒歿す年 七十三。	
天明三 1783 二四四三 癸卯	歲三十八	九月地頭より苗字及旅次 十佩刀を許さる。苗字及旅次 配伊能達歿す年四十三。	
天明四 1784 二四四四 甲辰	歲三十九	民飢饉に付私儲を發して納 九月地頭より苗字及旅次 十佩刀を許さる。苗字及旅次 配伊能達歿す年四十三。	
天明五 1785 二四五五 乙巳	歲四十	正月實父神保貞恒の後配 七月實父神保貞恒の後配 八月名主を罷め村役後見 を命ぜらる。	

天明六 1786 二四四六 丙午	歲四十二	關東大飢饉に付大に私儲 を發して窮民を賑恤す。 二男敬慎生る(庶出)。	長久保玄珠、葵九段の廣輿記圖を校正し大清廣輿圖 を作らる。牛込觀測所を淺草片町裏通空地へ移す。 本多利明精授時府を作り本年を曆元とす。
天明七 1787 二四四七 丁未	歲四十三	正月奥村邦俊天文方に任ぜらる。 麻田安彰實驗銳推步法を作らる。 桂川甫周の萬國圖說成る。	吉川古松軒西國地方に遊び西遊雜記を著す。
天明八 1788 二四五八 戊申	歲四十四	正月奥村邦俊天文方に任ぜらる。 森島中良著紅毛雜語刻成る。 和田寧生る。馬場佐十郎生る。	有島賴徳卒す年七十。 山口日鐵五郎等幕命により樺太の南部を探検す。
天明九 1789 二四五九 己酉	歲四十五	正月奥村邦俊天文方に任ぜらる。 司馬江漢天文地文に關する銅板圖十二枚を作らる。 大槻玄澤蘭學樹木を出版す。	長久保玄珠、葵九段の廣輿圖を校正し大清廣輿圖 を作らる。牛込觀測所を淺草片町裏通空地へ移す。
天明十 1790 二四五〇 庚戌	歲四十六	正月奥村邦俊天文方に任ぜらる。 和田寧生る。馬場佐十郎生る。	高橋至時蘭學樹木を出版す。
寛政元 1791 二四五一 辛亥	歲四十七	正月奥村邦俊天文方に任ぜらる。 和田寧生る。馬場佐十郎生る。	La Personne: 理細理の東岸に沿ひ 北航し韓靼海峽の南部に達し宗谷 海峽及得撫海峽を通過し此の邊の 地形を探査す。
寛政二 1792 二四五二 壬子	歲四十八	正月奥村邦俊天文方に任ぜらる。 和田寧生る。馬場佐十郎生る。	Lagrange: Mécanique Analy- tique が出版す。

寛政四 1792 二四五二 壬子	歲四十八	二月地頭より三人扶持を 給せらる。	露國船東蝦夷厚岸に來り昨年の回答を促し通商を求 む。吉山秀升天文方に任せらる。
寛政三 1791 二四五一 辛亥	歲四十七	六月仙臺藩廢桑原陰朝の 女信を納れて繼室となす。	露國船東蝦夷厚岸に來り通商を求む。吉山秀升天文方に任せらる。
寛政二 1790 二四五〇 庚戌	歲四十六	三女琴生る(庶出)。	露國船東蝦夷厚岸に來り通商を求む。吉山秀升天文方に任せらる。
寛政一 1791 二四五一 辛亥	歲四十五	三女琴生る(庶出)。	露國船東蝦夷厚岸に來り通商を求む。吉山秀升天文方に任せらる。
寛政元 1791 二四五九 己酉	歲四十四	三女琴治生る(庶出)。 十二月二女篠(加瀬修助妻)歿す年二十。	露國船東蝦夷厚岸に來り通商を求む。吉山秀升天文方に任せらる。
寛政 1792 二四五二 壬子	歲四十八	六月仙臺藩廢桑原陰朝の 女信を納れて繼室となす。	露國船東蝦夷厚岸に來り通商を求む。吉山秀升天文方に任せらる。

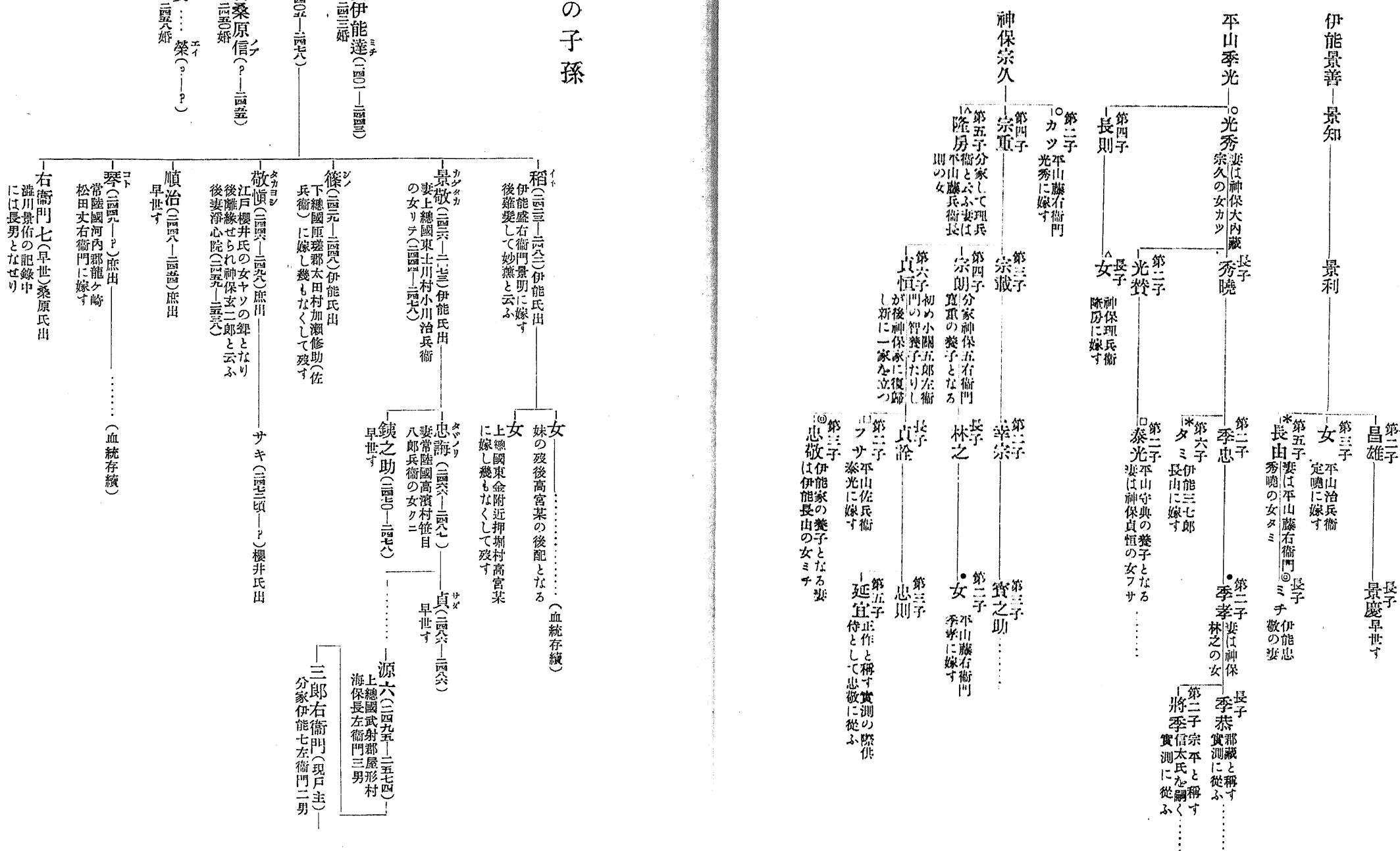
寛政五 1793	二四五五 癸丑	四十九	正月三男順治天す年七。 十二月家長男器敬に辭讓 りて隠居し三人扶持を辭讓 す。隠居扶持として一人 扶持を給せらる。通稱を 勘解由と改む。	山路徳風及吉田秀升等去年崇禎曆書によりて試曆作 成命名せられ本年二月これを上呈す。 司馬江漢地球全圖略説を出版す。
寛政六 1794	二四五四 甲寅	五十歳	三月繼室桑原信江戸の生 家に歿す。五月出府深川黒江町に備 居を卜す。高橋至時の門に入る。 忠敬多年の勤功により地頭所より尊敬に稱姓及旅 次佩刀を許す。	閏十一月一日大觀玄澤等同學諸子相會し新元會を開き陽曆の元旦を祝す。
寛政七 1795	二四五五 乙卯	五十一歳	三月繼室桑原信江戸の生 家に歿す。五月出府深川黒江町に備 居を卜す。高橋至時の門に入る。 忠敬多年の勤功により地頭所より尊敬に稱姓及旅 次佩刀を許す。	六月林子平歿す。年五十六。
寛政八 1796	二四五六 丙辰	五十二歳	九月高橋至時吉田秀升、山路徳風等改府の要務を帶 び上京す。十二月間重富請假大阪に歸る。 稻村三伯(後海上上鷗鳴)者ハルマ和解辭書成る。 足立信順生る。	四月高橋至時召されて出府、府局に入り十一月天文 方に任ぜらる。六月間重富出府、府局出仕を命ぜらる。 十月高橋至時の配永田氏大阪に歿す。年二十九。
寛政九 1797	二四五七 丁巳	五十三歳	自其金戸の南中を觀測す。 客分の名の下に某氏(名 は榮)を納れて後配とな す。	Laplace: Exposition du Système du Monde を出版し星雲説を唱ふ Hansen: 獨逸に生る。
寛政十 1798	二四五八 戊午	五十四歳	高橋至時増修肖長法、新考日食三法を稿す。 志筑忠矩府幕新書を譲達し星雲説に類する自説を附 録す。高島秋帆生る。 四月安島直圓歿す。年六十。	

文化元年 1804	二四六四 甲子	六十歲	八月尼服及越前以東の沿 海實測圖成り上呈す。 九月小音譯組に補し十人 扶持を給ひ高橋景保の手 附手傳を命ぜらる。 十二月西國一回海邊測量 を命ぜらる。	Napoleon : 佛蘭西帝位に即く。
文化二年 1805	二四六五 乙丑	歲六十一	二月江戸出發、東海街道 筋、伊勢より紀伊を經て諸 島嶼に至る海岸、淀川筋、隱 岐等を測量して十一月江 戸に越年す。 山に越年す。	Trafalgar 海戰。
文化三年 1806	二四六六 丙寅	歲六十二	備中以西の山陽海岸及諸 島嶼を測量して十二月江 戸に歸る。 山に越年す。	
文化四年 1807	二四六七 丁卯	歲六十三	備前、伊予、山陰及若狭海岸、隱 岐等を測量して十二月江 戸に歸る。 山に越年す。	
文化五年 1808	二四六八 戊辰	歲六十四	正月江戸を發し氣賀街道、 四國及淡路の海岸、大和 及伊勢街道等を測量し伊 勢山田に越年す。 山陽道の街道筋を測量し 豊前小倉に越年す。	露盤 槍太郎延澤に上陸し狼藉す。 正月長英生る。
文化六年 1809	二四六九 己巳	歲六十五	正月江戸に歸着す。 七月昨年測量せる地域の 地圖成りて上る。 又命によりて日本輿地全 圖を假製す。	間重富垂球精義を著す。
文化七年 1810	二四七〇 庚午	歲六十六	正月江戸を發し中山道及 山陽道の街道筋を測量し 豊前小倉に越年す。	間重富垂球精義を著す。
文化八年 1811	二四七一 辛未	歲六十七	正月江戸を發し相模津 浦を測量して肥前一部の 小街道を實測す。 此頃女婿の夫盛右衛門 と妻なる。	間重富垂球精義を著す。
文化九年 1812	二四七二 壬申	歲六十八	正月江戸を發し中山道及 山陽道の街道筋を測量し 豊前小倉に越年す。	間重富垂球精義を著す。
文化十年 1813	二四七三 癸酉	歲六十九	正月江戸に歸着す。 七月昨年測量せる地域の 地圖成りて上る。	間重富垂球精義を著す。
十月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著す。				
河野通禮渾天新話を著す。				
舟某應天曆を著す。				
高野長英生る。				
正月橋至時歿す年四十一、長子景保天文方に任せらる。				
正月間重富出府、府局出仕を命ぜられ府書取調に從事す。				
近藤守重邊要分界圖考を著				

文政元 1818	二四七八 戊寅	七十四 歳	四月十三日八丁堀龜島町の宅に歿す。喪を秘して發せらず、墓側に葬る。寺高橋三十六至年景保の妻りて歿す年一月十五日。次孫鏡之助歿す年	Bessel : Fundamental Astrono- miae かくじゅうじゆ。
文政一 1819	二四七九 己卯	.....	近藤守重續輿夷草紙を編す。 石坂常資分度星圖を製す。 十月司馬江漢歿す年七十。	Bohnenberger : Württemberg の三角測量の指揮者となる。
文政二 1820	二四八〇 庚辰	.....	五月英船浦賀に來る。	蒸汽船 Rising Sun 大西洋を航海す。
文政三 1821	二四八一 辛巳	.....	七月大日本沿海輿地全圖及輿地實測錄完成し上呈す。 九月四日費を發す。 屋敷孫孫忠誨敬しに功を賞し人扶持佩刀及町可す。 許す。	Walbeck : 秘錄、印度、佛蘭西、吉利、Lapland 等に於ける測量の結果を緯度、經度、M. = 10000268 m; $\alpha = 1:302.78$ なる値を算出す。
			高橋景保の満洲文字に關する著述完成し上呈す。	Gauss : 本年 4 月 1840 に亘り Göttingen 及 Altona 間に度法測量を行ふ。
			十二月幕府東西蝦夷地を松前氏に還附す。 箕作省吾生る。	Napoleon : St. Helena に歿す。

文化十四 1817	三四七 丁丑 歲 七十三	九月江戸府内地圖成り上 呑す。	測量派出隊は箱根蘆之湖、高橋景保の満文輯韻満文散語解成る。 富士裾野、相模、武藏の諸街道、荒川筋等を測りて坂部廣脛海路安心錄を著す。 四月江戸に歸る。八月より十月に亘り江戸府内を細測す。 此頃伊豆七島等の地圖成る。此頃佛國曆象編斥委を著す。	二月高橋景保御書物奉行に任せらる、天文方たること故の如し。 十一月間重富攝津國多田庄水晶山に赴き月入帶食の食象を觀象す。
文化十五 1818	三四七 丁丑 歲 七十四	四月杉田玄白歿す年八十五。 十一月會田安明歿す年七十二。	間重富論日月兩食推歩爲皆既而有時微光者略説二條を作る。	Stephenson: Waterloo に戰て大敗 Napoleon: Waterlooo に戰て大敗 St. Helena に幽閉せらる。
文化十六 1819	三四七 丁丑 歲 七十五	四月二男敬慎を放逐す。	六月景敬の喪を發し嫡孫忠裕をして其後を繼かし此頃三男敬慎楚家より忠裕を贈られ十一月より忠裕に寄食す。	近畿に於ける主要街道の残部、濃飛信の二三の街道等を測りて五月江戸に歸る。六月居を八丁堀龜島町に移す。六月景敬の喪を發し嫡孫忠裕をして其後を繼かし此頃三男敬慎楚家より忠裕を贈られ十一月より忠裕に寄食す。
文化十七 1820	三四七 丁丑 歲 七十六	四月於て觀測を續行す。	二月江戸府内街道筋を繋ぐ測す。此頃九州地方殘部の地圖成る。四月部下を派して伊豆地方を測らしむ。該測量派出隊は下田街道、伊豆七島、伊豆東海岸等を實測して熱海に越年す。	二月高橋景保御書物奉行に任せらる、天文方たること故の如し。 十一月間重富攝津國多田庄水晶山に赴き月入帶食の食象を觀象す。
文化十八 1821	三四七 丁丑 歲 七十七	丁抹に於て Schumacher の指揮の下に度法測量を開始す。	二月江戸府内街道筋を繋ぐ測す。此頃九州地方殘部の地圖成る。四月於て觀測を續行す。	二月高橋景保御書物奉行に任せらる、天文方たること故の如し。 十一月間重富攝津國多田庄水晶山に赴き月入帶食の食象を觀象す。
文化十九 1822	三四七 丁丑 歲 七十八	丁抹に於て Schumacher の指揮の下に度法測量を開始す。	二月江戸府内街道筋を繋ぐ測す。此頃九州地方殘部の地圖成る。四月於て觀測を續行す。	二月高橋景保御書物奉行に任せらる、天文方たること故の如し。 十一月間重富攝津國多田庄水晶山に赴き月入帶食の食象を觀象す。
文化二十 1823	三四七 丁丑 歲 七十九	丁抹に於て Schumacher の指揮の下に度法測量を開始す。	二月江戸府内街道筋を繋ぐ測す。此頃九州地方殘部の地圖成る。四月於て觀測を續行す。	二月高橋景保御書物奉行に任せらる、天文方たること故の如し。 十一月間重富攝津國多田庄水晶山に赴き月入帶食の食象を觀象す。
文化廿一 1824	三四七 丁丑 歲 八十	丁抹に於て Schumacher の指揮の下に度法測量を開始す。	二月江戸府内街道筋を繋ぐ測す。此頃九州地方殘部の地圖成る。四月於て觀測を續行す。	二月高橋景保御書物奉行に任せらる、天文方たること故の如し。 十一月間重富攝津國多田庄水晶山に赴き月入帶食の食象を觀象す。
文化廿二 1825	三四七 丁丑 歲 八十一	丁抹に於て Schumacher の指揮の下に度法測量を開始す。	二月江戸府内街道筋を繋ぐ測す。此頃九州地方殘部の地圖成る。四月於て觀測を續行す。	二月高橋景保御書物奉行に任せらる、天文方たること故の如し。 十一月間重富攝津國多田庄水晶山に赴き月入帶食の食象を觀象す。
文化廿三 1826	三四七 丁丑 歲 八十二	丁抹に於て Schumacher の指揮の下に度法測量を開始す。	二月江戸府内街道筋を繋ぐ測す。此頃九州地方殘部の地圖成る。四月於て觀測を續行す。	二月高橋景保御書物奉行に任せらる、天文方たること故の如し。 十一月間重富攝津國多田庄水晶山に赴き月入帶食の食象を觀象す。
文化廿四 1827	三四七 丁丑 歲 八十三	丁抹に於て Schumacher の指揮の下に度法測量を開始す。	二月江戸府内街道筋を繋ぐ測す。此頃九州地方殘部の地圖成る。四月於て觀測を續行す。	二月高橋景保御書物奉行に任せらる、天文方たること故の如し。 十一月間重富攝津國多田庄水晶山に赴き月入帶食の食象を觀象す。

伊能平、山神保三、三家ノ親族關係



忠敬の子孫

稻(西三二二八)伊能氏出  
伊能盛右衛門景明に嫁す

上總國東金附近押堺村高宮某に嫁し幾もなくして歿す

カゲタカ  
景散(一四六二)伊能氏

妻上総國東玉川村小川治兵衛の女リテ(三四四—三七八)

條(一四三元—一四四八)伊能氏出

兵衛)に嫁し幾もなく

敬慎（二四六—二四八）庶出一

後離縁せられ神保玄二郎と  
妻淨心院(三豊九一五八)

頤台(1933—1935)影集

早世す

琴(西汉——?)庶出  
常楚國河內郡龍子奇

松田丈右衛門に嫁す

右  
瀧川景佑の記録中

二十一